

第14回キャリアビジョン相談会では、日本の良さや日本での生活の仕方を訪日外国人に向けて発信しているウェブサイト MATCHA を運営している青木優さんにお越しいただき、メディアと発信をテーマにした講義とグループワークを行った。以下はその講義内容をまとめたものである。

#### 【メディア】～MATCHA とはどのようなものか？～

ビジョン：日本の価値ある文化を時代とともに残すこと

青木さんは現在の日本の数ある問題点の内、とくに2つの問題点を指摘する。一つは日本には素晴らしい文化や環境があるが、現在それが急速に無くなりつつある。もう一つは日本の旅行情報を伝える媒体が確立されていないことである。これを解決するために青木さんは、発信を通じて日本の良さを時代とともに残そうと考え、日本と世界の架け橋になることをミッションに活動している。それが MATCHA の存在理由だ。MATCHA は7言語に対応しているサイトで、4ヶ月で155ヶ国からアクセスがあった。コンテンツとしては日本の便利なものを外国人に使い方を教える HOW、東京や京都などの観光地を紹介する PLACE とポップカルチャーを紹介する FUN がある。また、ホリエモンや経済産業省、東急ハンズなどとコラボレーションをしている。

#### 【経緯】～MATCHA を始めたきっかけとは？～

##### I. 国際日本学部と世界一周

国際日本学部では漫画などの日本文化を学ぶ。その中でとある教授が、「日本の文化が世界で流行っているが、それをビジネスできていない」ということを話した。そこで以前から決めていた世界一周で、その現状を見ようと考えた。この旅を通して、原体験にこそ価値があると、自分の価値観に変化が起きる。私たちはインターネットの普及により分かった気になってしまうが、実際に自分が体験したことでなければ自分の選択に活かせないのだ。

その後、日本にも知らないことがたくさんあり、日本をもっと知りたいと思い、国内を旅する。日本を旅して気付いたのは、それぞれの地域には大企業よりも強いエネルギーがあることだ。しかしながら、これら日本の文化は急速に衰えている。様々な原因が考えられるが、その原因の根本は人に伝わっていないからということがある。その結果、人とズレが起き、時代に取り残されているのではないかと感じる。現在、日本のいいものを伝える媒体が日本にはない。その媒体をつくることで日本の伝統文化を守りたいと考えた。

##### II. 映像

如何にして、日本を発信していくかを考えているときに、知人からある映像をもらう。

その映像は日本のある地域を紹介しているもので、とても感激した。そして、その映像を作っている会社の社長さんと会う。そして早速その映像を自分のブログにアップする。結果多くの人の反響があった。映像が人に大きな影響を与えることを知り、その会社に入社し、貴重な体験を多くする。しかし、映像を作るのには莫大な時間と資金がかかる。メディアが無ければ、人に見られることなくどれだけいい映像でも人に広がらない。映像には限界が有ると考えたのである。そこで、自分の強みであるブログを用いて、日本の文化を発信していこうと考えた。

### Ⅲ. 訪日外国人 1000 万人突破

映像に限界を感じて会社を辞め、どのようなメディアをつくるか考えていた時、訪日外国人が 1000 万人を突破したというニュースがあった。しかし、彼らの行く場所は同じ所が多い。なぜなら、情報が少ないため他のところに行くことができないからだ。そこから、訪日外国人向けに情報を提供していきたいと考え、「届けるべきモノコトを届けるべき人が 届けられる場に」をコンセプトにして MATCHA を立ち上げた。

#### 【発信する】～発信において大切なことは何か？～

発信における大切なものは熱量があることである。なぜなら、伝えることの本質は動かすことにあるからだ。現在、日本には多くの情報があふれているが、情報には消費されるコンテンツと積み重ねるコンテンツがある。情報が人を動かすことができれば、その人の人生に残る。振り返った時にきっかけはその情報にあったと思えばその情報は積み重ねるコンテンツだったといえる。MATCHA では、そのような情報を充実させようとしている。